



ブルワリー開業、
夢を一緒に実現する。



店舗のチームワークからはじまる創業支援

このストーリーは、桑原様が嵯峨支店に口座開設のために来店されたことから始まります。窓口担当の廣瀬は窓口でのやり取りから桑原様の想いを知り、その想いを営業担当の高倉に伝えたことから創業支援がスタートしました。

事業にかける「想い」を繋ぐ

2023年10月にオープンした「京都嵐山ブルワリー」は、オリジナルのエールビールが売りのブリューパブです。代表の桑原博巳様は30年前にイギリスのパブで注文したエールビールの香りのよさに衝撃を受け、ビールを飲みながら会話を楽しむスタイルに憧れを感じていました。続いて訪れたアメリカでは、地域に根差したローカルビールが忘れられず、「いつかは自身でブルワリーを開業したい!」という夢を抱き続けていました。





窓口からつながる創業サポート

嵯峨支店 窓口担当の廣瀬は来店された桑原様との会話からブルワリー開業を考えておられることを知りました。廣瀬は桑原様の想いをより詳しく知るために「どこで開業されるのか」「どんなお店を思い描かれているのか」などをヒアリングしました。「**金庫として何かお手伝いできないか**」と考えた廣瀬は、**営業担当の高倉に情報を共有**。廣瀬からバトンを受け取った高倉が、すぐさま桑原様にコンタクトを取ったことから創業支援が始まりました。

開業に向けて、多方面からサポート！

ブルワリーの開業には物件探しや設備の設置、免許の取得など開業に必要な準備がたくさんあります。東京から京都に移住された桑原様は、慣れない土地で開業準備をしていかなければなりません。そんな桑原様を助けるために、高倉は幅広い支援を行いました。**開業に必要な不可欠な店舗の内装工事や醸造機器購入に係る資金調達にはじまり、酒造免許の手続きについてのアドバイス、醸造設備業者、酒税に強い税理士とのマッチング**などあらゆる面から桑原様をサポートしました。



京都にちなんだ ビジネスマッチング



高倉は、地域に根差したブルワリーを理想とする桑原様の想いに応えるために、**QUESTIONでのイベントへのご案内や、地元事業者とのマッチング支援**を行いました。そして、地元の食材を「酒の肴」として提供いただける3社とのマッチングが成約しました。

また、**お米を副原料にしたビール製造の計画を知った高倉は「古今嵯峨米」を扱う事業者とのマッチングも支援**。オリジナルビール「古今嵯峨米シーズン」の誕生にもつながりました。同店は2023年10月にオープン！観光客やビール好きの方に人気の賑わいのあるブルワリーとなりました。



京都嵐山ブルワリー株式会社
代表取締役
桑原 博巳様

窓口で廣瀬さんに創業のことを伝えてみると、とても興味を持って話を聞いてくださり、それが新鮮で嬉しかったです。また、高倉さんは何でも相談できる心強い方で、おかげでとても早く色々なことが進んでいきました。これからもよろしくお願ひします。



コミュニティ・バンク京信
高倉 亮平

桑原様の事業に対する想いをヒシヒシと感じ、創業メンバーの一員として責任感を持って、充実した仕事をさせていただけました。今後、京都を代表するようなブルワリーになっていただき、今以上に輪が広がる様にご支援させていただければと思います。



コミュニティ・バンク京信
廣瀬 由理

窓口で初めてお会いした時から桑原様の熱意に共感し、何かお役に立てないかと思ひお話を伺い、営業担当者につながりました。今後もさらなる事業の拡大・発展に向けて、当金庫内でお客様目線のアンケートを実施するなど、サポートを継続していきたく思ひます。

京都産業大学漫画部

× コミュニティ・バンク京信

元気がでるプロジェクト

コロナ禍、近隣の飲食店を元気づけようと
京都産業大学漫画部の学生さんに
ご協力いただき、お店の特徴をモチーフに
漫画を描くプロジェクト。



前田から引き継いだ坂本が、
10月下旬に青果店「マルシェノグチ様」を訪問。
今年度初めて完成した作品をお渡ししました！

2021年6月、コロナ禍の終焉がまだ見えぬ頃、当金庫朱雀支店では、地元の飲食店の苦しい状況を見聞きする中で、何か元気づけることが出来ないかと店内プロジェクトを立ち上げました。

そんな時、京信とともに地域活性化コミュニティ「朱雀協働計画」に参加されていた京都産業大学の職員さんのご紹介で、同大学の漫画部の学生さんがプロジェクトに参加されることに。同大学ではコロナ禍の影響で、授業やクラブ活動がオンラインとなり、漫画部の学生さんも制作した作品を披露する場所がなくなったという悩みがありました。ミーティングを重ねた結果、漫画部の学生さんにお店の特徴をモチーフに漫画を描いてもらい、お渡しすることで元気づけようというプロジェクトの方針が決定。



マルシェノグチ
野口様ご夫妻

私たちのような商店と、これから社会に出られる学生さんを繋ぐという試みは有意義だと思います。私たちも地域の支えのおかげで今日までやってこられたので、この店が地域のコミュニティの場になって欲しいです。販売しているのは野菜ですが、イチオシは私たちの人柄だと思っています。コミュニケーションを通じて生産者さんの想いを消費者に届けたいです。



しかし、コロナ禍でプロジェクトのミーティングの開催も途切れがちに。同支店前田は「朱雀支店の先輩方から代々引き継がれてきたので何とか繋げていきたい」と店内での協力を仰ぎました。制作に際しては、学生さんをお店にお連れし、店主の方々の熱い思いを直接うかがうことで、イラスト・漫画のイメージを膨らませてもらいました。完成した漫画を受け取られたお店の方々からは「お店の特徴を捉えています！」「早速店内に飾らせてもらいます」というお声をいただき、大変喜んでいただきました。今では三条商店街の飲食店だけではなく、近隣の飲食店にまで範囲を広げて活動しています。

大学との連携で
飲食店の魅力と漫画の魅力の両方を
伝えられる企画を！



京都産業大学
漫画部 高橋さん

地域のお店に作品を贈ることは初めてでとても緊張しました。すぐに飾ってくださったのが大変嬉しかったです。



コミュニティ・バンク京信
前田 亜純

私は京都市出身ではないので三条商店街のことを知りませんでしたが、地域の方々の温かさに触れ、魅力的なお店がたくさんあることを知りました。プロジェクトでは飲食店をただ紹介するだけではなく、大学との連携によって漫画の魅力もお届けできました。今後も地域の飲食店や学生さんを手助けできる取組を行っていききたいと思います。

このプロジェクトは今後も綿々と続いていきます。

書籍

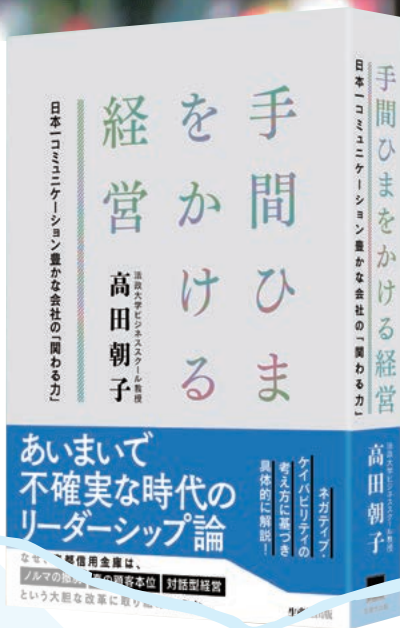
『手間ひまをかける経営』のご紹介

「VUCAの時代」に必要な経営姿勢や働き方のあるべき姿

当金庫を題材とした書籍『手間ひまをかける経営』が2023年11月1日に出版されました。本書では、コミュニティ・バンクとしての当金庫の在り方を事例に、ネットワークに関する理論やネガティブ・ケイパビリティの考え方を切り口として、変化が激しく不確実なこれからの時代を生き抜くにあたってのヒントが示されています。約3年間当金庫を研究調査し執筆された、法政大学経営大学院教授の高田朝子氏にお話を伺いました。



法政大学経営大学院教授 高田 朝子氏



1

京信さんの職員を見ていると安心する

当金庫に興味を持ったきっかけは？

京都の中小企業の社長さんから「京信さんが面白いことをやっている」と聞いたことがきっかけです。実際、話を聞いて驚いたのは「ノルマがない」ということ。私は元々金融機関に勤めていたのでノルマがないなんてあり得ないと思いました。その様な意思決定をするには、京信さんの経営陣だけでなく、職員も納得しないとできないと思います。その実態はどうなっているのかを知りたいと思いました。

当金庫のどんな所が印象に残っていますか？

私は、銀行の窓口で手続きをする際、後ろに人が待っていると急がなければいけないと思ってしまいます。京信さんの窓口に行くと職員の方は親切でお客さんを急かす雰囲気がありませんでした。京信さんでは、おばあちゃんが金庫職員との会話を楽しんでいるような親密さがうかがえ、もし私に何かあった時も助けてくれる気がして安心できます。

2

身体と心を大事にする時間を持つ



本書から何を学び取って欲しいですか？

時代はトライ・アンド・エラーが大事になると思います。だからこそ、得られる結果ありきではなく、**結果が見えにくいことにも手間ひまをかけて取り組むことが大事だと思います**。生活や経営の中で起こる問題は、必ず白黒がハッキリ付けられるものではありません。どちらか一方に決めるのは楽ですが、その曖昧な状況の中でどう判断するかを自身に問い続けて耐え抜くことも必要です。



手間ひまをかけるには時間がかかります。どうしたら良いですか？

大切なのは自分を客観視することだと思います。本当にこの仕事はいるのか。何をもたらすのか。自分の執着で抱えていないかと問い直すことです。高度経済成長期のように「やっただけ儲かる」わけではない。課題が複雑に絡み合う曖昧な時代を生き抜くためには、心の豊かさが必要なのではないのでしょうか。**自分の身体と心をいたわる時間を持つことも大事だと思います**。



Cスクエアバックナンバーはこちらからお読みいただけます！
[Click!](#)